

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	T-DREAM HOUSE		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 15日 ~ R7年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	R7年 12月 16日 ~ R7年 12月 23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を中心とした多角的なアプローチ。身体機能の向上だけでなく、集団活動を通じた社会ルールや友達との関わり方、気持ちの折り合いをなど、様々な面での学びを包括的に提供することができる。	運動活動を通して、「①ルールを守る」「②友だちを大切にする」「③最後までプレーする」という3つの約束を児童と共有し、日々の支援の中で実践。その過程では、結果だけにとらわれるのではなく、努力したことや挑戦した姿勢に焦点を当て、小さな成功体験を積み重ねられるよう関わっている。「できた」という達成感を大切にし、それが自己肯定感の向上につながるよう、意識的な声掛けを継続して行っている。	利用してくれている子どもたちや保護者の方とのコミュニケーションを密に行い、施設に対しての要望や意見を反映できるような体制づくりをしていく。
2	専用のフットサルコートを完備しており、十分な時間と広さを確保した療育を提供できる点が最大の強みである。この環境を活かし、身体機能の向上にとどまらず、子どもたちが思いきり体を動かせる機会を保障することで、心身のリフレッシュへつなげている。	安全に十分な運動量・質を確保できるようなプログラムを構成するようにしている。 ゴールポストにはクッションをつけたり、コート入口にスタッフを配置するなど安全面にも留意している。	利用してくれている子どもたちや保護者の方とのコミュニケーションを密に行い、施設に対しての要望や意見を反映できるような体制づくりをしていく。

3	スポーツ経験豊富な明るいスタッフが揃っており、運動の楽しさを多角的に伝えることで、子どもたちが自分のペースで運動をより好きになれる環境がある。	運動をより好きになってもらえるよう、スタッフが個々のレベルに合わせた具体的な声かけを行い、「やった！できだ！」という成功体験を増やすよう意識している。また、運動を通して、友達と関わる楽しさ、チャレンジする素晴らしさを伝えていくようにしている。	利用してくれている子どもたちや保護者の方とのコミュニケーションを密に行い、施設に対しての要望や意見を反映できるような体制づくりをしていく。
---	---	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専用コートでの活動が充実している反面、雨天時や静的な活動（室内活動）が必要な場面において、プログラムのバリエーションが限定的である。子どもたちの興味・関心を多方面から引き出すための、室内での活動内容の拡充が課題となっている。	限られた室内スペースや環境を有効活用したプログラムの検討。また、スポーツ経験を活かした指導に特化する一方で、室内で行う活動やプログラム等の拡充が不足していることが要因と考えられる。	子どもたちの興味・関心を多方面から引き出すための、室内での活動内容を隨時検討していく。
2			
3			